

1 自己評価及び外部評価結果

| | | | |
|---------|-----------------|-------|-----------------|
| 事業所番号 | 0671600260 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人睦会 | | |
| 事業所名 | ラ・フォーレ天童グループホーム | | |
| 所在地 | 山形県天童市大字道満176-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 5 年 7 月 5 日 | 開設年月日 | 平成 13 年 4 月 1 日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------|---------|-----------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人エール・フォーユー | | |
| 所在地 | 山形県山形市小白川町二丁目3番31号 | | |
| 訪問調査日 | 令和 5 年 8 月 2 日 | 評価結果決定日 | 令和 5 年 8 月 28 日 |

(ユニット名 ほほえみ)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・コロナで外出の制限がある時期から、屋内での活動に力を入れてきた。昔からの馴染みのある行事や、制作等のレクリエーションの他、季節ならではの行事として、旬のものを使った手作り料理やおやつで季節感を感じて頂けるよう工夫に努めている。個人に合わせた支援として、その方の出来る事・得意・不得意・好みを考えたうえで働きかけをしようとしている。
 ・毎日の食事は管理栄養士が立てた献立をもとに手作りしている。週2回は入居者の希望を聞き、食べたい物を取り入れるようにしている。ホールの台所で作る為、温かい状態で提供出来、調理中の音やにおいなどでも、グループホームならではの家庭的な雰囲気を感じて頂いている。
 ・天然温泉があり、温泉のお湯を利用したお風呂と床暖房が完備されている。
 ・ユニット毎にユニット目標を掲げ、入居者とゆっくり過ごす時間を作る事を大事にしなが、より良いサービス提供に繋がるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナウイルス感染症も第5類に移行して窓越しからだった面会も制限内ではあるが対面で会えるようになり、徐々に普通の生活に戻りつつあります。ホーム内では毎食手作りの美味しい食事が提供され、調理の音や匂いが食欲をそそり、話題づくりにも一役買っています。今年度は「残存能力を活かすケアプラン」を重点項目に掲げて、利用者を良く知り、観察して、アンケート形式で聞き取りも行なうなど情報の質を高めてケアに活かしています。職員の8割以上が介護福祉士の資格を持ち、各委員会が中心となってより良いケアとサービスの向上に努め、利用者・家族等に安心と信頼で応えている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|--------------------|--|---|--|-------------------|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「地域から必要とされるグループホーム」を理念に掲げ、事務所に理念を掲示し職員の意識付けをしている。以前は、地域行事に参加したりしていたが、新型コロナウイルス感染症対策の為、参加出来ていない状況である。 | | | |
| 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している | ボランティアの受け入れ、災害時に地域の方の参加協力を頂き、訓練にも参加していただいていたが、昨年度は新型コロナウイルス感染症対策の為、地域の方に協力いただいている訓練も入居者、職員のみで実施した。 | | | |
| 3 | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 天童市の認知症カフェ(あったカフェ)に運営スタッフとして参加したり、家族交流会では講話を通して認知症の人の理解や支援をお伝えしていたが、新型コロナウイルスの影響で、認知症カフェ、交流会は中止になっている。 | | | |
| 4 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 新型コロナウイルス感染症の影響により施設での対面開催が出来ていない。書面で、入居者の生活の様子や職員の研修状況等を2カ月に1回お知らせしている。説明やご意見は電話でお受けしている。 | | | |
| 5 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に市の担当者からも参加いただき事業所の取組み等を伝えていたが、新型コロナウイルスの感染状況により、文書のみでのやり取りになっている。 | | | |
| 6 | (1) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる | 身体拘束をしない方針で取り組み、尊厳ある暮らしを提供する事について委員会を中心に検討を行っている。日中、玄関の施錠はせずセンサーチャイムを設置し、外に出て行く入居者の方には声掛け・付き添いし拘束しない工夫をしている。離設する可能性のある入居者に対して、居室の窓に簡易的な内鍵を設置したり、転倒の危険がある入居者に対して、動きがわかるように鈴や離床センサーを使用している。家族の了承を頂くと共に、毎月カンファレンスを行い見直しを行なっている。現在離設する可能性のある方に対して、御家族了承のもと、その方居室の窓に簡易的な内鍵を設置させていただいた。 | 身体拘束をしないケアについては毎月のユニット会議で現状報告や話し合いが行われ、さらに身体拘束廃止委員会で検討して書面回覧にて周知徹底を図っている。随時研修会も開催し、対応マニュアルや接遇マナー、正しい言葉遣いなどを確認している。また見守りを強化しながら万が一に備えて離設者捜索訓練を行い、安心・安全に暮らせる環境づくりに努めている。 | | |

| 自己外部 | | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------|-----|--|--|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 7 | (2) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | オンラインでの研修に参加し、研修内容は回覧や会議で報告し、日頃のケアを見つめ直す機会を作っている。虐待防止委員会を発足し間もないが、虐待に繋がってしまう原因の一つであるストレスに関しては、オンライン研修に参加したり、資料を作成し回覧する事で、個人で出来る事から職員に対し情報の発信を行なっている。 | 今年度から虐待防止委員会を3ヶ月に1回開催し、虐待行為や防止についてオンラインによる外部研修に参加して、伝達研修で職員全員へ理解浸透が図れるよう取り組んでいる。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している | 認知症ケア加算研修で、書面での回覧にはなるが学ぶ機会を持ち、理解を深めている。 | / | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約に至るまでの十分な説明と、家族との絆を継続出来る方法を納得いただいた上で、契約内容を詳細に説明している。入居後も相談を随時お受けし、家族との信頼関係を築く大切な機会と意識している。 | / | | |
| 10 | (3) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族へ年に1回アンケートをお願いし、要望や意見を頂き、改善点を検討している。玄関先にご意見箱や気付いた事を記入するノートを置いている。記入の無い現状ではあるが、直接要望や意見を頂く事も多く、随時対応している。 | 時間や人数を制限しての面会が可能になり利用者の様子を見てもらいながら話を聞き、家族アンケートと共に意見・要望を運営に反映させている。また利用者からもアンケート形式で生活面や健康面での思いを聞いてケアプラン等に繋げている。 | | |
| 11 | | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に1度管理者も同席し主任会議を行い、職員からの意見等を主任・副主任から伝えたり相談することが出来る。又、職員が意思や思いを伝えやすく聞き入れられる環境が出来ている。年に1回職員へ振り返りのアンケートを実施し個々に管理者からのメッセージがあり、やる気に繋がっている。 | / | | |
| 12 | (4) | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の意見を聞き、各職員に合った勤務時間・勤務体制等を考慮している。給与・手当においても勤務状況を考慮したものとなっている。受講したい研修の希望も取り入れており、やりがいのある職場環境作りにも努めている。 | 年1回の振り返りアンケートで職員の実情を把握し、それぞれの事情を考慮して時短や夜勤業務など希望に沿った勤務体制となっている。年2回の健康診断で体調を管理し、コロナウイルス感染症対策での荷重業務には給与面で応えている。 | | |
| 13 | (5) | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 各職員の情報を主任会議等を通して把握し、研修内容の希望を聞き、施設内で研修を行ったり、外部の研修に参加する機会を作っている。新型コロナウイルス感染症対策の為、オンラインでの研修が多くなっている。 | 毎月その時必要とされるテーマ「火災時の動き、正しい言葉遣い、認知症のせん妄…」で内部研修を実施し、事業所全体の質向上に努めている。また外部研修は情報を提示して参加を募ると共に、段階に応じて受講を勧め伝達研修で理解を深めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 山形県グループホーム協会の交換実習に参加し、お互いの事業所の良い所を取り入れたり情報交換等出来たが、新型コロナウイルスの影響により中止となっている。オンライン研修に参加し同業者との交流の機会を作っている。 | | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に担当ケアマネジャーからの情報や家族・本人と面会を行い、要望や困っている事等を確認し、反映させ耳を傾けている。安心して暮らせるように配慮し、信頼関係づくりに努めている。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービス開始時は家族や本人が不安に感じている事や要望などしっかり聞き、入居してからの様子等の報告を密に行なっている。慣れていない事も多い為、理解しやすく丁寧な説明で信頼関係を築けるように努めている。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人の状況、環境を考慮し、本人、家族、ケアマネジャーと連携し支援している。必要に合わせNPO法人の洗濯・送迎サービスや認知症デイケア、訪問マッサージや歯科往診・口腔ケア等のサービスに繋げている。 | | | |
| 18 | (6) | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者主体を忘れず、本人の要望や出来る事のアセスメントで活用できる環境を整えている。家事等を一緒に行ったり、共同生活の関係を築けるよう努力している。 | 一人ひとりに合わせたセンター方式のシート(基本・暮らし・心身情報…)を活用して定期的に見直しを図り、利用者をよく知ることを心掛けている。利用者への聞き取りアンケートでは感謝や労いの言葉をもらい、共に暮らす職員の励みになっている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 来訪時に入居者の生活状況を可能な限りでお伝えしている。毎月発行しているおたよりに写真を載せたり、玄関先に行事に参加されている様子の写真を掲示したりしている。 | | | |
| 20 | (7) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 新型コロナウイルスの影響で、行き慣れた場所に行く事や、親しい人と会うことが難しいが、窓越しで面会をしたり、オンライン面会をすすめ、積極的に行なって行く事で、人との関係が途切れないように努めている。 | 利用者のこれまでの人間関係や地域でどう暮らしてきたかを把握しており、これからはコロナ禍前の生活を取り戻し、馴染みの美容院に行ったり、買い物に出かけたり、関係継続の支援を検討している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 穏やかに生活できるよう、テーブルの配置にも気を配っている。職員が介入し、利用者同士気持ちよく居られる場であるように、性格的波長も考えてセッティングするようにしている。 | | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居後も本人や家族の相談にいつでも応えるように努めている。又、入院による一時退居時も家族と連絡を取ったり面会したりサポートしている。 | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | その人がどんな生活を送りたいのか、楽しいと感じる事は何かを普段の会話からの聞き取りや、センター方式の一部、介護支援経過表の記録を活用し把握に努めている。思いを伝えられない方は、表情や仕草から思いを汲み取るように行っている。 | | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の面談や自宅、施設、病院等に行き、本人や家族、ケアマネジャー、関係者より情報を得るようにしている。入居後は本人との会話を通じて得た情報や、聞き取りした資料をファイリングして、その都度暮らしの把握が出来るようにしている。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日常生活の様子を見たり、ケアプラン作成時にセンター方式やアセスメントシートを活用して把握出来るよう努めている。ユニットノートを利用し、現状や変化を伝え、職員間での情報の共有を図っている。 | | | |
| 26 | (8) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 3～6ヶ月毎にケアプランの見直しを行い、センター方式を利用しアセスメントを行い、前回の評価やモニタリングを取り入れ、ケアプランに反映させている。ユニット会議や全体会議で、職員間の意見も反映されるケアプラン作りに努めている。 | 「残存能力を活かすケアプランと評価報告」を今年度の重点項目に掲げている。プランに沿った内容の評価を日々の記録に残して、検討会議で意見を聞きながら利用者の好きなことや課題を見極め、本人・家族等の意向も踏まえた介護計画となっている。 | | |
| 27 | (9) | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個々にケアプランの内容に沿った記録を行い、特記があれば介護録に記入している。情報を共有する事で、どうすれば良いか見直しに役立っている。 | 日々の気づきや変化は個人のケース記録や業務日誌、申し送りノートに記録し、出勤時に確認して共有しながら業務にあたっている。ケアプランに沿った記録で評価を行い、できることや課題を拾いあげ見直しに活かしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われな い、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り 組んでいる | 帰宅願望がある方に対して、外へ出て外気浴をし たり、歌を歌いたいと言う方には歌詞カードやカラ オケマイクを使用し歌ったり、随時その方のニーズ に合わせ対応出来ている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を 把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全 で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支 援している | 新型コロナウイルス感染症対策の為、地域との交流 が出来ていない状況。 | | |
| 30 | | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、 かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している | 入居者や家族が通い慣れた希望する機関を受診 している。身体状況や生活の様子を情報提供書に まとめ、家族に伝えた上で主治医へ報告している。 必要時、電話にて報告したり、職員付き添いも行っ ている。月に1回内科医の往診を受けている。 | | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護 師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な 受診や看護を受けられるように支援している | 医療連携体制を行っており定期的に訪問看護師 による健康管理のチェックと体調不良時の観察が 受けられている。急変時の対応と受診の有無の指 示が得られている。処方薬の変更、状態の変化等 あれば随時報告している。 | | |
| 32 | (10) | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、また、できるだけ早期に退院できるよ うに、病院関係者との情報交換や相談に努め ている。又は、入院治療が必要な可能性が生 じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係 者との関係づくりを行っている | 入退院時はサマリーを通して情報交換している。家 族からの状態の聞き取りや、状態変化と現状の把 握をしている。退院時は、面談に行き医療連携を 図ると共に、退院後の生活がスムーズに出来るよ う努めている。現在特に病院は対面での面談が 出来ず、出来てもzoom等の画面を通してだ ったりするので、十分な情報収集が出来ない 場合もある。その為より細かい部分まで情 報収集出来る様確認項目を増やし、グル ープホームで受け入れできるのか、的確な 判断が出来るようにしていくことも課題と 言える。 | 入院時は事業所から情報を提供し、オン ライン面会や家族からの情報、医療 機関との連絡を密にして協働関係を築 きながら現状把握に努めている。退院と なった場合は歩行や食事、排泄状態、 一般浴の入浴が可能かなどを確認し、 他施設への移動も含めより良い環境に むけて家族等と話し合い支援している。 | |

| 自己外部 | | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|---------------------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 33 | (11) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居者の状態や状況から本人・家族の意向を伺い、かかりつけ医・訪問看護師との協力体制が確保された支援方針を決めている。年に一度、家族との面談を行い、今後の意向などを聞く機会を設けていたが、新型コロナウイルス感染症対策の為行えていない。現在、施設での看取りは行っていない。どういう状況になったら退居になるのかという部分は御家族が知りたいと思っている情報の一つであるので、入居時に契約書以外の文面でもお伝えするようにした。 | 入居時に指針を示し、食事が摂れない、入浴ができない、医療行為が必要になるなどを重度化と判断し、また看取りは行っていないことを説明して本人・家族等の理解を得ている。家族等とは利用者の状態の変化に応じて話し合いを持ち、意向を確認しながらかかりつけ医・訪問看護師の判断・意見を踏まえて、ホームでの生活の継続か、他施設への移動、入院するなどの支援方針を決めている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルを作成し、緊急時にすぐ確認できる場所に設置している。避難訓練の他に、離脱時の訓練や感染症の応急的な処置の実演も定期的に行っている。新型コロナウイルス感染症発生時の防護服の身につけ方の手順やマニュアル作成、ゾーニングシュミレーションも行っている。コロナの感染情報が薄れる中、第9波到来の話もあるので、シュミレーション等を含め定期的に開催し、備えをしておくことも課題と言える。 | / | / | |
| 35 | (12) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害時は職員全員が動けるように訓練を行なっている。新型コロナウイルス感染症対策の為、少数者ずつ机上で行なっている。火災は通報装置や機器の使い方の確認も行なっている。火災発生を想定して、入居者参加の訓練を行なっている。 | 5月に火災避難訓練を利用者も参加して行い、職員それぞれが感想と反省を報告し課題等を話し合っている。また水害や地震時の机上訓練も行い災害に備えている。訓練前には利用者を対象にミニ講話「火災の話・クイズ」「水害のDVD・話」「地震の話」を行い防災への理解を図っている。備蓄・防災用具、非常持ち出し品の準備を行っている。 | 夜間想定での災害避難訓練を検討のうえ実施することに期待したい。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (13) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | センター方式用紙を利用し、一人ひとりの生活歴や生活を理解し、日頃から誇りやプライバシーを損ねない声掛けを意識し、心地よい雰囲気作りに努めている。 | これまでの生活歴や仕事歴、性格、どのように暮らしたいか、できること・できないことなど一人ひとりについて情報を職員は共有している。その人に合った言葉かけや傾聴することで誇りやプライバシーを尊重した支援を心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の思いや希望を伝えやすい環境作りに努めている。自己決定ができる様な声掛けや対応を意識し、入居者の自立支援に努めている。 | | | |
| 38 | (14) | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事のペース、入浴時間、余暇の過ごし方など、その方の希望や体調、気分に合わせて対応を心がけている。 | 食事や入浴の時間、レクリエーション活動、ホールや居室での過ごし方、趣味活動など一人ひとりに合わせて毎日穏やかに気持ち良く過ごしてもらえるよう支援している。コロナ禍のためできなかった楽しい家族や友人との面会、散歩やドライブ、外出も徐々に以前の状態に戻りつつある。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 好みの衣類を選んで頂き、整容できるよう、鏡・ブラシなどを準備したり、化粧品や整髪用品の希望があれば家族に依頼し用意していただいている。髪が伸びていたり、散髪の希望があれば家族の了承を得て散髪している。 | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立や利用者の声を参考に3食手作りしている。季節に合った食材を使ったり、おやつを手作りしたり楽しんでいる。家事についても一人ひとり出来る事に参加して頂く事で、楽しみや自信、意欲に繋がるよう支援している。現在、入居者と職員は距離をとって食事をしている。入居者に調理家事に参加していただく際は、マスク、手袋をしてもらう事を基本としているが、手袋をつける事でやりずらさがあり、積極的に食事準備をお願いする事は少ない。 | 系列法人の管理栄養士作成のバランスの取れた献立と利用者の声を取り入れた週2回の昼食自由メニューを交えながら美味しい料理が毎日の楽しみの一つと捉え、旬の食材や差し入れ野菜なども利用して手作りにこだわった食事を提供している。利用者からは食後のあと片付けをしてもらい、また経験と知恵を生かした梅干し・干し柿、おやつ作りなどできることを手伝ってもらうなど張り合いや意欲に繋がるよう支援している。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 隣接する老人保健施設の管理栄養士が立てた献立で、既往歴、咀嚼や嚥下の状態に合わせて提供している。水分・食事の摂取表を活用し、水分が進まない方には好みの飲み物を提供している。病院から入居になった方はカロリー制限や水分の制限があったりするので、入居前に確認するようにしている。 | | | |
| 42 | (16) | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを促している。声掛け、見守りのなか、本人の力に応じた口腔ケアを行い、必要な方へは介助を行なっている。歯科受診の必要があれば、家族へ報告し、受診を促している。又、希望があれば歯科往診や口腔ケアの訪問も利用出来る。 | 毎食後声がけし見守りや必要の方へは介助して、歯磨きやうがい・入れ歯洗浄などをしてもらい口腔内の清潔保持を図っている。咀嚼や歯に問題ある時は家族等に連絡し受診を促している。食事前に「今日は何の日」「歌う」など皆で声を出して嚥下がスムーズにできるようにしている。 | | |

| 自己 外部 | | 項目 | 自己評価 | | |
|----------|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 外部評価 | |
| | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 43 | (17) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄状況を確認し、誘導時間を調節したり、自分で出来る事は行なって頂く事で残存機能を活かせる支援を行っている。 | 排泄チェック表により一人ひとりのパターンを把握し、適時にさりげない声掛けてトイレ誘導している。歩行やトイレでの見守り・介助では利用者の残存機能を活かし、自立に向け支援している。プライバシーに配慮しながら排泄後に状態を確認して体調を伺い、また下着等の汚れ確認を行い清潔に過ごせるようにしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日昼食前に、体操と歌を取り入れて体を動かす機会を作っている。一人ひとりの排便状況を把握し、その人に合った方法を取り入れたり、かかりつけ医や訪問看護師に相談しながら下剤の調節を行っている。 | | |
| 45 | | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 希望に合わせた時間帯や入浴の有無の確認を行い、体調に合わせて入浴を行っている。温泉のお湯を利用している為、体があつたまと喜ばれている。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | その日の体調に合わせた休息を取り、生活のリズムを作る事でも安心に繋げている。足の浮腫みがある方には椅子に挙上していただいたり、寝具の足を高くしたり工夫している。安眠出来るように日中の活動の工夫をしたり、眠剤が必要な方には主治医に相談し調整している。 | | |
| 47 | (18) | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 調剤薬局から届く薬は処方箋通りの薬品か確認し、職員は薬の効能と副作用を理解するよう努めている。薬の変更があれば服薬後に状態観察を行い、主治医に報告したり、薬剤師に相談する様になっている。 | 家族同行受診時に処方箋を提携調剤薬局に提出してもらい薬は薬局より直接ホームに届けられている。処方箋通りか確認を行い、何の薬か・効能・副作用の理解に努めたうえで保管庫に整理し、毎日の仕分け時にダブルチェックで氏名・薬を確認し、服薬時は経口確認している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | センター方式の活用や、日常生活の中で生活歴や得意な物などの把握に努めている。新型コロナウイルス感染症の影響で、屋内で出来る運動や装飾作り、お菓子作り、レクリエーションなどを一緒に行う事で張り合いや楽しみを感じられるよう支援している。少しずつ外出規制が緩和され、桜や紅葉などを見にドライブレクを行えた。 | | | |
| 49 | | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外出支援は、ドライブや施設周辺の桜を見たり神社に参拝に行ったり、散歩などを行なっている。新型コロナウイルス感染症対策の為、家族との外出も控えて頂いていたが、今後は感染症対策を行いながら緩和する方向でいる。 | | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を所持する事で安心される方もおり、家族と相談のうえで対応している。希望があり買い物にいった際は、見守りの元支払いをしていただき支援していたが、新型コロナウイルス感染症対策の為、今は行えていない。 | | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話の希望があった時は、自ら電話をして家族と話をすることが出来る環境を作っている。又、職員と一緒に暑中見舞いのはがきを手作りし、家族へ渡した事もあった。携帯電話を持っている入居者の方もおり、いつでも会話出来る環境にある。 | | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 夏は窓から差し込む日差しを遮れるようにすだれを設置したり、温度や湿度を気にかけて入居者に合わせ快適に過ごせるように努めている。廊下や居室に日常の風景を撮った写真を飾り、ホールには馴染みのある歌詞や季節を取り入れた制作物を掲示したり、装飾している。 | 天窓から明るい光がホールを包み、夏の強い日差し時はすだれで遮り、温・湿度管理で快適に過ごせるようにしている。利用者は職員と一緒にモップ掛けなど掃除を行い、調理時のにおいて食欲をそそられ、レクリエーション活動を皆で楽しみ、活動時の笑顔の写真や季節の創作品を飾り、ホールはいつでも寛げる居場所となっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 53 | | <p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p> | <p>共同空間であるホールには、掘りごたつのある和室が設けてある。中庭にはベンチが設置しており、皆で植えた花を眺めたり憩いの場になっている。新聞や本を読んだりテレビを見たり、廊下の散歩等思い思いに過ごされている。気の合う方との会話を楽しんでいる方もいる。</p> | | | |
| 54 | (20) | <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>家族と相談し、今まで使用していた家具や馴染みの私物を持参して頂き、居心地よく過ごせるようにしている。家族との写真や自分の制作した物を飾ったりしている方も居る。</p> | <p>障子戸に囲まれ落ち着ける和風造りとなっており、使い慣れた家具や馴染みの物を配置し、家族の写真や趣味・レクリエーション活動での創作品を飾り居心地良く暮らせるようにしている。立ち上がりや歩行に不安ある方には家族等の了解を得てセンサーを設置し安全に過ごせるよう支援している。</p> | | |
| 55 | | <p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p> | <p>生活の中で歩行の妨げにならないような家具の配置の工夫や、タンスの引き出しに衣類の名前を貼り自立を促している。建物内部に危険個所がないか、毎月点検を行い改善に努めている。</p> | | | |